

主体的に考え、豊かに伝え合う七里っ子を目指して

～ アクティブ・ラーニングの視点を生かした よりよい授業づくり ～



校章

さいたま市立七里小学校



あいさつ

さいたま市教育委員会
教育長 細田 眞由美

さいたま市立七里小学校が、平成29、30、31年度さいたま市教育委員会委嘱による「主体的・対話的で深い学び」の研究指定校として、その成果を発表されますことに敬意の意を表しますとともに、心からお喜びを申し上げます。

七里小学校では、「主体的に考え、豊かに伝え合う七里っ子を目指して」を研究主題に、「アクティブ・ラーニングの視点を生かしたよりよい授業づくり」を副題に掲げ、授業改善に取り組まれました。

研究の特色といたしましては、対話を通して児童の思考を表現し、「より深い学び」の実現を目指した点が挙げられます。具体的には、児童の主体性が向上するよう教材や資料との出会い方を考え、話合いの目的に応じて人数や場を意図的に設定し、根拠をもって伝えられるように工夫されました。その成果は、進んで友達と話し合う児童の姿に表れていると伺っております。

各学校におかれましては、七里小学校の研究の成果を自校の実態に即して生かし、より一層教育活動の充実に努めていただきますようお願いいたします。

結びに、小野寺智夫校長先生をはじめとする教職員の皆様、熱心に御協力、御支援をいただきました保護者や地域の皆様に心より感謝を申し上げ、あいさつといたします。



あいさつ

さいたま市立七里小学校
校長 小野寺 智夫

本校は、さいたま市教育委員会の研究委嘱を受け、「主体的に考え、豊かに伝え合う七里っ子を目指して～アクティブ・ラーニングの視点を生かしたよりよい授業づくり～」を研究主題として、3年間にわたり、主体的・対話的で深い学びの研究に取り組んでまいりました。

本研究は、「つかむ」「追究し高める」「深める」という3つの段階を設定し、3年計画で進めてきました。1年目の「つかむ」段階では、教科を絞らないでアクティブ・ラーニングの授業を模索し、教科の特性を踏まえた提案授業を6回行いました。2年目の「追究し高める」段階では、3教科（生活科・理科・社会科）に絞り、教科の特性を生かしながら研究を進めました。3年目の今年度は、まとめとして「深める」段階と位置付け、話合い活動を深め、多面的・多角的に考えられる児童を育てるために、「対話」と「学び」の結び付きを意識した研究を進めてまいりました。その結果、児童の主体性に向上が見られましたので、本研究発表会で、3年間の研究の成果をぜひご覧いただき、ご忌憚のないご指導・ご助言をいただければ幸いです。

結びに、本校の研究に対しまして、きめ細かなご指導をしていただきました市教委浅野博一先生・新井飛鳥先生・塩野光洋先生、平成29・30年度にご指導いただいた校長先生、教頭先生、教育委員会指導1課の先生方、そして、本日も講演いただきます早稲田大学教職大学院教授 田中博之先生に心から感謝申し上げます。

<研究の成果>

- 「個人での考えの構築 → ペアやグループでの対話」という過程の中で考えたり話し合ったりする集団の規模を変えていくことで、一人ひとりが自分の考えを活発に伝え、話し合いを深めることができた。
- 「同質グループ → 異質グループ」と、話し合いのメンバー構成や順序を工夫し、児童一人ひとりに役割を与えることで、話し合いに意欲や目的意識をもたせることができた。
- 児童の実態を考え、知的好奇心をくすぐるような課題設定を工夫することで、主体的に学習に取り組んだり、必要感をもって話し合ったりすることができた。

<課題>

- ▲話し合いを伝え合いで終わらせず、新たな考えや疑問を生み出していけるように、対話の質を更に高めたい。そのために、資料や体験から「分かったこと」を基にして、その先の「自分の考え」に結び付けられるような指導の工夫を継続して行っていく必要がある。
- ▲各教科での目標を達成するために、単元や本時で身に付けさせたい力を意識した指導計画と手段としてのアクティブ・ラーニングの実現を目指したい。そのために児童の実態を踏まえ、どのような学習活動を行っていけば付けたい力が身に付くのか、1単位時間の姿だけでなく、単元全体を見据えて計画的に指導していく必要がある。

あとがき

教頭 丸山 謙一

平成29年度から3年にわたり、さいたま市教育委員会の委嘱を受け、「主体的・対話的で深い学び」の研究に取り組んで参りました。主題に迫る授業の研究と改善を重ね、子どもたちのために研究を進めてきました。

本日まで、教職員が一丸となって進めて参りました研究の成果を基に、これからも七里っ子が「主体的に考え」「豊かに伝え合う」ことができる「よりよい授業」の研究を深めて参りたいと思います。

結びにあたり、ご指導を賜りましたさいたま市教育委員会の先生方に心よりお礼を申し上げます。また、今後ともご指導・ご教示を賜りますようお願いいたします。

ご指導いただいた先生方

さいたま市教育委員会	指導1課主席指導主事 兼 幼・小学校教育係長	浅野 博一 先生
さいたま市教育委員会	指導1課主任指導主事	新井 飛鳥 先生
さいたま市教育委員会	指導1課指導主事	塩野 光洋 先生

研究に携わった本校職員

校長	小野寺 智夫	教頭	丸山 謙一	主幹教諭	樋口 浩
丹後 五月	○松尾 亮	◎小坂井達也	細矢 咲紀	石井ゆかり	○森山 友寛
○菅 真也	藤田 裕子	鈴木 茉綾	○星野 大洋	池田 洋明	○結城 葵
○古川 勇志	田中 由佳	白木美恵子	○山下 正晃	山口真里奈	飯塚 真理
佐々木勇氣	國清 知美	本間 典子	東 美希	半杭 幸広	相葉きみ代
宇田川守子	羽鳥チエミ	真中美佳子	岡田 弥生	小澤 洋子	大山 隆悦
黒埼万記子	松崎 鮎美	吉岡 弘子	大村 裕子	フォム・シ・ママク・リランジュ	鈴木 清司
山口 真弓	高橋 智子	大塚かおり			

(○学校課題研究推進委員 ◎学校課題研究主任)

～ 七里小 アクティブ・ラーニングの歩み ～

研究体制
～3年間の研究計画～

H29年度
「つかむ」
「アクティブ・ラーニング」を知り、
授業に結び付け、課題を見付け出す段階

H30年度
「追究し高める」
自校の「アクティブ・ラーニング」の
課題を克服する段階

本年
「深める」
よりよい授業を目指し、自校の
「アクティブ・ラーニング」を深める段階

☆：成果
★：課題

2年目「追究し高める」

☆「追究し高める」段階として、系統性を考えて社会科、理科、生活科の3教科に絞って研究を進めた。実験、体験から生まれる児童の疑問やつぶやきを大切に、「やってみよう」「知りたい」と主体的に取り組めるように進めた。
☆話し合い活動では、場の設定や人数、視点の明確化、思考ツールの工夫を行うことで、自分の考えを豊かに表現できるようになってきた。
★「対話」を「学び」にしっかりと結び付けられるような手立てが必要だという課題が見付かった。

1年目「つかむ」

☆「教師もアクティブ・ラーニング」を合言葉に、様々な教科で「アクティブ・ラーニング」とは何かを模索しながら授業研究を行った。
☆多教科で視点を考えながら取り組んだことで、児童の主体性を高めようとする教師の意識が向上し、課題設定や発問を工夫することで、進んで学習に取り組む児童が多くなった。
★対話や学びの質を向上させるために、「学習のねらいを明確にする」、「話し合い活動の視点を定める」という課題が見えてきた。

主体的に考え、
豊かに伝え合う七里っ子！

3年目「深める」

☆「深める」段階として、児童がより一層主体的・対話的で深い学びを実現できるように“七里小アクティブ・ラーニング5つのポイント”を作成し、項目を意識しながら授業を行った。
☆それぞれの教科の特性を踏まえ、単元や授業の目標を確実に達成できるように、単元計画全体を見通して授業改善を行った。

<生活科>

生活科における“深い学び”の姿

生活経験や体験を通して、身近な人々、社会及び自然と関わり、そこから気付いたことを対話や試行錯誤を通じて自分の思いや願いを実現させていこうとする姿

●1学期の実践 2年生「どきどき わくわく まちたんけん」



「なぜ」、「どうして」と問い掛ける言葉を大切に、児童のつぶやきに積極的に問い掛けました。

前は言葉にならなかったけど、買い物に行った時の経験を振り返りながら理由を考えて、気づきを深めることができました！



1時間の中で、「考えを共有する時間」、「学習の振り返りの時間」を位置付け、十分な時間を確保しました。

自分が調べたお店だけではなく、友達が紹介したお店にも考えを広げ、「もっと知りたいな。」「今度家族と行ってみよう。」と、これからの生活に向けて思いを高めることができました！



<理科>

理科における“深い学び”の姿

観察や実験を行って得た結果や気づきを、既習事項や生活経験とつなげたり、比較したりしながら個人で根拠をもった考察を生かして気づきの質を高めようとする姿

●1学期の実践 3年生「どれぐらい育ったかな」



導入では児童の興味をひく教材・教具を提示し、観察対象を比較して共通点を発見できるようにワークシートを工夫しました。

ケースが透明だから一目で植物の体のつくりが分かって、見た瞬間に「わあ」と声が出ました。植物の体に興味をもてました！



話し合いの班を意図的に設定し、一人ひとりに役割をもたせ、比較しながら調べる活動を大切にしました。

先に同じ植物を観察した人同士で話し合い、その後に違う植物を観察した人同士で話し合ったら、自分の班に戻った時に自分の意見をもちやすくなりました！



七里小アクティブ・ラーニング 5つのポイント！！

- ★導入 →
 - ・児童のつぶやき「やってみたい!」「知りたい!」を大切に、意欲付けを図る。
 - ・振り返りカードや疑問マップ等を活用し、児童の言葉や疑問を使って学習課題を立てる。
 - ・児童と一緒に学習計画を立て、学習の見通しをもたせる。
- ★発問 →
 - ・短く、端的に。児童に分かりやすい言葉で問い掛ける。
 - ・“学びの方向性”を意識させる。
 - ・児童の考えを揺さぶり、学びの必要感をもたせる。
- ★対話 →
 - ・「人数設定」「場の設定」を意図的に、「話合いの視点」を明確にする。
 - ・自分の考えをもった状態で話し合わせる。
- ★ツール →
 - ・自分の考えを表現したり、相手の考えを可視化したりする。
 - ・考えを「比較」したり、「分類」したりする。
- ★まとめ・振り返り →
 - ・課題と正対したまとめを行う。
 - ・振り返りでは視点を定め、次の学習につなげられるようにする。

単元計画では、1時間ごとの授業で身に付けさせるべき力を明確にして、「知識を身に付ける時間」と「話合い活動をする時間」をバランスよく配置しています。



<社会科>

社会科における“深い学び”の姿

社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較分類したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりして気付きを深める姿

●1学期の実践 6年生「武士の政治が始まる」



3人グループで、それぞれ違う資料を読み取らせることで、話合いの必要感をもたせることができました。

グループ内で「衣食住」について分担したため、一人ひとりが調べ学習や話合いに責任をもって取り組みました!



前単元に引き続き、それぞれの時代の特徴を「一言(=キャッチコピー)で表す」活動を取り入れ、比較しやすくしました。

これまでの時代と比較して考えることで、時代の特徴や暮らしの移り変わりに気付くことができました!

